令和７年度戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業
実証事業 令和７年度採択校フォローアップ調書
（令和８年 10 月交付分）

法人名：国立大学法人東海国立大学機構　大学名：岐阜大学

(0) 取り組みの対象テーマ

取組テーマ	○	観点２：社会実装・イノベーションの推進
		観点３：地域貢献の強化

(1) 事業初年度から現時点までの取組とその効果

（交付済のうち執行済の交付金における取組について）

初年度の交付及び令和８年度４月の交付により、社会実装研究コア(SIRC)の設置など、環境・体制整備を行うとともに、社会実装研究の推進やマネジメント改革などに取り組み、「キャンパスまるごと共創型社会実装大学」への変革を着実に進めた。

(1)－1. 実施した取組の具体的な内容

多様性と卓越性の強化

構想調書	実施した取組	基本計画該当箇所
外国人研究者による戦略的論文投稿等の支援	R8.3-4 にハイインパクトジャーナル元チーフエディタの外国人教員を招へいし、若手研究者及び博士課程学生への個別の論文執筆指導及び全学的な論文投稿に係るセミナーを開催した。また、SIRC 構成員等を対象として、TOP10%ジャーナルへの論文投稿料等に係る支援を実施した。	－
国際研究ネットワーク形成	名古屋大学パートナー大学であるノースカロライナ州立大学 (NCSU) の執行副学長等を本学に招き、本事業の紹介及び今後の連携に向けた協議を行い、まずは共通する研究分野の研究者間でのミーティングを行った。英国シェフィールド大学 AMRC へのアプローチも行った。	第 2 章　2(2)
その他	社会実装に必要な倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI: Ethical, Legal and Social Implications/Issues）解決に向け、広く ELSI 研究者にアプローチし、ELSI 研究者の本学訪問及び研究推進に係る協議を行った。	第 2 章　3(6)

KPI		R6(2024)年	R7(2025)年	R8(2026)年	R9(2027)年
TOP10%ジャーナル論文割合	目標値	－	23%	24%	25%
	現在値	20.5%	20.2%		
	実績値（1 年後）	21.5%			
	実績値（2 年後）	－			

※現在値は当該年の Cite Score（翌年 6 月算出）を用いた TOP10%ジャーナル論文割合、実績値（1 年後）は 1 年後の Cite Score を用いた割合、実績値（2 年後）は 2 年後の Cite Score を用いた割合。Cite Score は年により変動があるため、実績値も併せて示す。

研究環境の整備

構想調書	実施した取組	基本計画該当箇所
研究環境戦略の策定	研究環境戦略策定の基盤となる研究 IR データの活用に向け、論文データベースの名寄せなど環境整備に取り組んだ。また、研究リソース配分のため、研究エフォート確保策の検討や研究シーズの評価に取り組んだ。	第 2 章　6(1)
共用機器の利用促進	従来分散していた情報を集約し、より利便性の高いサービスを提供するため、学内の共用機器を一覧で表示できる外部向け Web サイトを構築した。同時に別途共用機器の導入を進めたこともあり、利用人数が大幅に向上した。	第 2 章　5(1)
新規共用機器の導入	3 次元積層造形活用技術開発コンソーシアムの組成に際し、共創コンソーシアムにおける企業との共同研究に供する共用機器を導入した。	第 5 章　3(1)

KPI		R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
共用機器の利用人数	目標値	－	延 1,000 人	延 1,050 人	延 1,100 人
	実績値	延 1,009 人	延 1,590 人		

マネジメント改革

構想調書	実施した取組	基本計画該当箇所
エンダウメント型大学経営の推進	償還期限を迎えた金融商品及び大学経営自律化促進事業で集めた寄附金を原資にリスク運用を開始した。同窓生との連携強化のため、アラムナイプラットフォーム導入や岐阜大学経営者の会発足に取り組んだ。担当副学長やファンドレイザーによる寄附者訪問など、関係構築・強化に取り組んだ。	第 5 章　1(3)

KPI		R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
エンダウメント運用利益率(リスク運用率)	目標値	－	6.0%	6.0%	6.0%
	実績値	－	8.0%		
寄附獲得件数	目標値	－	1,600 件	1,675 件	1,750 件
	実績値	1,739 件	1,527 件		
寄附獲得金額	目標値	－	12.0 億円	12.5 億円	13.7 億円
	実績値	12 億円	13.6 億円		

社会実装・イノベーションの推進

構想調書	実施した取組	基本計画該当箇所
社会実装研究コア(SIRC)設置及び共創研究の推進	SIRC を設置し、必要な人員の雇用及び拠点の整備、HP 開設等に取り組んだ。新たに 3 次元積層造形活用技術開発コンソーシアムを組成 (R8.1) 、加えて資源循環に関するコンソーシアムも令和 8 年内に組成予定である。また、生命科学及び食品科学分野のコンソーシアム組成に向け、学内の研究シーズの調査及び企業ニーズとのマッチングに取り組み、3 件を一次候補として絞り込んだ。	第 5 章　1(2)
産学交流の推進	スタートアップ支援関係教員を雇用するとともに、産学融合拠点である TOIC 岐阜サイトの更なる有効活用に向け、外部機関や民間企業と連携した企画立案に取り組んだ。岐阜県公設試験研究機関職員が共創コンソーシアムに参画し連携した研究開発を行うとともに、県へ産学連携コーディネーターを派遣し、県内企業と大学シーズとのマッチングに取り組んだ。	第 5 章　3(1)

KPI		R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
社会実装のプロジェクト数	目標値	－	15	18	21
	実績値	17	25		
民間との共同・受託研究の受入額	目標値	－	8.0 億円	8.5 億円	9.0 億円
	実績値	7.6 億円	9.0 億円		
スタートアップ設立数	目標値	－	3 社	4 社	5 社
	実績値	7 社	6 社		

(1)－2. 提案する取組により想定される効果

取組	効果	想定している指標（実績値は前述）
外国人研究者による戦略的論文投稿等の支援	質の高い論文の増加	TOP10%ジャーナル論文割合
国際研究ネットワーク形成		
共用機器の利用促進	効果的な機器の運用	共用機器の利用人数
新規共用機器の導入		
エンダウメント型大学経営の推進	安定的な大学経営資源の確保	エンダウメント運用利益率 寄附金獲得件数、金額
社会実装研究コア設置及び共創研究の推進	地域企業の課題解決、新産業創出、大学における社会課題解決力の強化	社会実装のプロジェクト数 民間との共同・受託研究の受入額
産学交流の推進		スタートアップ設立数

(2) 令和８年 10 月交付による取り組み計画と見込まれる効果

（今回の交付金及び交付済のうち未執行の交付金における取組について）

R8.10 の交付により、より具体的に社会実装研究や機器共用、国際ネットワーク構築などの取組を進めるとともに、本事業終了後の取組の在り方についても検討を行う。

(2)－1. 提案する取組の具体的な内容と実施計画

多様性と卓越性の強化 ※KPI は前述の通り

構想調書	R8 計画	基本計画該当箇所
戦略的論文投稿等の支援	R8.11-12 に再度外国人教員を招へいし、論文執筆指導等を実施するとともに、TOP10%ジャーナルへの論文投稿料等に係る支援を実施する。指導・支援を受けた者の論文投稿状況等を踏まえ、より効果的な支援策を検討する。	－
国際研究ネットワーク形成	新たに雇用した国際連携担当特任教員を中心に、NCSU や AMRC 等との具体的な連携活動を協議する。	第 2 章　2(2)
その他	社会実装研究との接続を目指し、ELSI 研究プロジェクトを立ち上げ、共創コンソーシアムとも協力しながら研究を進める。	第 2 章　3(6)

研究環境の整備 ※KPI は前述の通り

構想調書	R8 計画	基本計画該当箇所
研究環境戦略の策定	利便性が向上した論文データベース等も活用し、研究環境戦略策定の試行に取り組む。また、研究リソース配分の最適化に向け、研究エフォート確保策や新たなコンソーシアム組成に取り組む。	第 2 章　6(1)
共用機器の利用促進	新たに雇用した広報戦略担当教員を中心に、共用機器の利用促進に向けた広報活動等に取り組む。	第 2 章　5(1)
新規共用機器の導入	引き続き、大型の共用機器等の導入に取り組む。	第 2 章　5(1)

マネジメント改革 ※KPI は前述の通り

構想調書	R8 計画	基本計画該当箇所
エンダウメント型大学経営の推進	償還期限を迎えた金融商品及び大学経営自律化促進事業で集めた寄附金を原資にリスク運用をさらに拡充する。アラムナイプラットフォームの活用促進のため登録者の増加や認知度の向上に取り組む。創立 80 周年記念事業の実施体制を確立し、寄附金募集を開始する。「岐阜大学経営者の会」の活動や担当副学長・ファンドレイザーによる同窓生・寄附者・企業等への訪問等を行い、関係性の深化に取り組む。	第 5 章　1(3)

社会実装・イノベーションの推進 ※KPI は前述の通り

構想調書	R8 計画	基本計画該当箇所
社会実装研究コア設置及び共創研究の推進	より効果的な SIRC の活動に向け必要なスペースを整備するとともに、共創型社会実装大学の実現に向け研究エフォート確保に向けた人事制度等を検討する。新たに資源循環に関するコンソーシアムを組成するとともに、生命科学及び食品科学分野に関するコンソーシアム組成に向け、関連する産業や企業分析を実施し、企業ニーズとのマッチングに取り組む。	第 5 章　1(2)
産学交流の推進	産学融合拠点 TOIC 岐阜サイトの更なる有効活用に向け、外部機関や民間企業と連携した企画を実施し、効果を検証する。機器の共用利用に係る岐阜県との連携に取り組む。	第 5 章　3(1)

(2)－2. 提案する取組により想定される効果

取組	効果	想定している指標（目標値は前述）
外国人研究者による戦略的論文投稿等の支援 国際研究ネットワーク形成	質の高い論文の増加	TOP10%ジャーナル論文割合
共用機器の利用促進 新規共用機器の導入	効果的な機器の運用	共用機器の利用人数
エンダウメント型大学経営の推進	安定的な大学経営資源の確保	エンダウメント運用利益率 寄附金獲得件数、金額
社会実装研究コア設置及び共創研究の推進 産学交流の推進	地域企業の課題解決、新産業創出、大学における社会課題解決力の強化	社会実装のプロジェクト数 民間との共同・受託研究の受入額 スタートアップ設立数